

## おわせSEAモデルプロジェクトの状況について

令和2年2月19日  
南部地域活性化局  
雇用経済部  
県土整備部  
農林水産部

## 1 現況と課題

尾鷲市、尾鷲商工会議所及び中部電力の3者が、おわせSEAモデル協議会を設立し、平成31年3月にグランドデザインを発表し、ゾーニング及びS、E、Aの各プロジェクトの下におく6つの検討部会が設置されました。

## (1) 全体計画

## ①ゾーニング

発電所跡地は、東紀州5市町の広域ごみ処理施設の建設候補地になっており、当初は発電所の既存施設（ボイラー棟、タービン建屋）（エリア1）を改修して整備する案でしたが、調査した結果、令和元年8月に既存施設は耐用年数等の健全性評価やプラントメーカーへのヒアリング等総合的に判断し流用しないこととなり、発電所跡地内で別の候補地を検討することとなりました。広域ごみ処理施設からの排熱も有効なエネルギーの一つであり、広域ごみ処理施設の建設場所は他の事業にも大きく影響することから、改めてゾーニング全体を検討することとなり、新たなゾーニングについては3月下旬に開催予定の総会で示される見込みです。

## ②その他課題

- ・用地の分譲、賃貸などの取扱いが定まっていないことや土地やインフラの整備及び排熱利用といった企業を誘致するために必要な条件が未整理です。
- ・発電所用地が港湾計画の一部となっていることから、再開発にあたり港湾計画の変更が必要です。

## (2) 検討部会

検討部会の開催状況は次ページの表のとおりです。

## ①プロジェクトS（リーダー：尾鷲市）

揚油栈橋の所有権や運営体制について中部電力と尾鷲市が協議を行っており、年内に一定の方向性を出す予定でしたが、未だに結論は出ていません。

釣り栈橋については、維持管理費や採算性等を含め、栈橋のあり方について再検討する予定です。

なお、栈橋に係る課題が解決されない中、流用する橋脚部分を残して配管等を撤去する工事が令和2年3月から始まります。

その他、アクティビティ等について、跡地に市内や東紀州地域のアクティビティを紹介、申込みできる機能を持つ拠点や、市民からの提案も含めたスポーツ施設等の整備を検討しています。

なお、プロジェクトの具体化に向けて、11月からコンサルティング会社とワークショップ形式で作業が進められています。

## ②プロジェクト E（リーダー：中部電力）

中部電力、尾鷲市、尾鷲商工会議所のほかに、事業パートナーとなる企業も検討部会のメンバーとして加わり、木質バイオマス発電について具体的な検討が進められています。さらに、燃料である木質チップの安定確保が課題であることから、林業関係者を含めたWGを開催し、燃料調達を中心に検討を重ねています。

なお、今年度内には事業性評価を確定し、事業実施の是非を判断する予定です。

## ③プロジェクト A（リーダー：尾鷲商工会議所）

三重県産業支援センターのファンドも利用しながら海ぶどうやバナメイエビの養殖の実証と市場調査を行っています。また、陸上養殖や施設園芸等の企業を調査・訪問し、誘致に向けた取組を行っています。

E で発生する排熱や CO<sub>2</sub> を利用して植物工場や陸上養殖を行うこととしています。が、主な熱供給源となる広域ごみ処理施設の稼働が 2026 年を目途としており、それまでの間は代替ボイラーが必要なことや、E の立地場所（ゾーニング）が確定していないという課題があります。

### <各プロジェクトの活動状況>

プロジェクト名	検討部会名	開催状況
プロジェクト S リーダー：尾鷲市（政策調整課）	釣り桟橋検討部会 部会長：尾鷲市（商工観光課）	4/18、5/22、8/30
	アクティビティ検討部会 部会長：尾鷲市（商工観光課）	4/18、5/22、8/30
	教育・スポーツ振興検討部会 部会長：尾鷲市（生涯学習課）	4/18、5/22、8/30
プロジェクト E リーダー：中部電力	木質バイオマス発電検討部会 部会長：中部電力	4/26、6/3、7/5、7/26、8/23、以降WG月2回程度
プロジェクト A リーダー：尾鷲商工会議所	アクア事業検討部会 部会長：尾鷲商工会議所	4/25、8/8、12/11
	アグリ事業検討部会 部会長：尾鷲商工会議所	4/25、8/8

## 2 県の支援等

進捗状況や課題、必要な支援等について定期的に協議する場に参加し助言するなど、これまでに県は、雇用経済部、南部地域活性化局が中心となって次のような支援等を行っています。

<p>検討部会等への参加状況</p>	<p>事務局会議：毎月1回程度（南部地域活性化推進課、ものづくり・イノベーション課）  S：南部地域活性化推進課（2回）  E：ものづくり・イノベーション課、森林・林業経営課（6月1回、7月以降は月2回程度）  A：尾鷲水産研究室（3回）、南部地域活性化推進課（1回）</p>
<p>企業訪問等</p>	<p>南部地域活性化局による企業訪問  ・金融機関とSEAモデル全般について意見交換  雇用経済部及び農林水産部による企業訪問  ・林業関係会社と木質チップの供給について協議（中部電力同行）  ・林業関係会社と市有林の活用について協議（尾鷲市、中部電力同行）  ・交通系企画会社とアクティビティについて意見交換（尾鷲市同行）  ・交通会社と自動運転について意見交換（尾鷲市同行）</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南部地域活性化推進本部内に「尾鷲三田火力発電所の跡地活用にかかる支援部会」を設置し、全庁的な支援体制を構築</li> <li>・尾鷲水産研究室が、海ぶどう（7～8月）、バナメイエビ（11月～2月）の養殖実験のため、水槽等の設備を貸与するとともに技術的な助言や専門家の紹介</li> <li>・港湾・海岸課及び尾鷲建設事務所が、港湾計画の変更について打合せ（継続して定期的に実施）</li> <li>・「みなとまちづくりフォーラム in おわせ」を中部地方整備局、尾鷲市、県等が合同で開催</li> <li>・雇用経済部と農林水産部が、木質バイオマス発電事業に関する燃料調達先の新規開拓を支援</li> <li>・雇用経済部及び農林水産部が尾鷲市に対する市有林の活用に関して働きかけを実施</li> <li>・南部地域活性化推進課が、南部地域活性化基金を見直し、支援対象として拡大</li> <li>・企業誘致推進課が補助金の紹介及び誘致に関する助言</li> </ul>

### 3 今後の取組

#### (1) おわせ SEA モデル協議会

ゾーニングの見直しを受け、令和2年度は、プロジェクト全体に共通する課題として、事業運営会社の設立に向けた検討、進出企業を誘致するための土地の整備、排熱利用等に関する条件整理などを行うとともに、各プロジェクトの具体化に向けて取組を進める予定です。

##### ①プロジェクト S

- ・コンテナを活用した飲食ブースの事業性評価のための実証実験
- ・グランピング等による滞在型ツアーの商品開発にかかる調査研究

##### ②プロジェクト E

- ・事業化に向けた準備（事業性評価で事業実施が決定した場合）

##### ③プロジェクト A

- ・陸上養殖産業（バナメイエビ・海ぶどう）創出のための、技術開発、マーケティング調査
- ・植物工場産業創出のための参加希望企業への意向調査、マーケティング調査
- ・企業マッチングの実施

#### (2) 県の主な支援予定

##### ①プロジェクトに対する助言・提案等支援

「尾鷲三田火力発電所の跡地活用にかかる支援部会」を活用し、各プロジェクトの具体化に向けて、課題解決等の助言だけでなく、県からも積極的に提案を行うとともに、事業パートナーを紹介するなど、関係部局が連携して積極的な支援を行います。

##### ②南部地域活性化基金による支援

令和元年度に南部地域活性化基金を見直し、民間企業等と連携した民間開発プロジェクトに伴う雇用創出の取組を支援対象としましたので、南部地域活性化基金を活用し、おわせSEAモデル協議会の取組を支援していきます。

##### ③港湾計画の変更に向けた支援

尾鷲市の港を含めた地域の活性化に向けた構想策定について、県土整備部が港湾管理者として積極的に参画し、支援します。また、令和2年度当初予算案において関連予算を計上して、尾鷲港の港湾計画変更の前提となる長期構想策定の検討を進めます。検討にあたっては、国の基本方針に沿って、東紀州圏域の玄関口として重要港湾の役割を果たせるような構想となるよう努めます。

##### ④木質バイオマス発電事業に対する支援

雇用経済部が農林水産部とともに木質バイオマス発電事業に対して、引き続き支援を行います。

##### ⑤陸上養殖実験に対する支援

陸上養殖実験を行う場合、尾鷲水産研究室の水槽等を貸与する等、引き続き支援します。